

大久野島・未来づくりワークショップ

第1回：2019年10月30日（水）13:00-16:00 道の駅たけはら



環境省中国四国地方環境事務所 常富 豊より
開会の挨拶



グループごとに意見を出し合う



各グループの意見を大きく書き出して、全体で共有した

ワークショップが始まりました！

瀬戸内海国立公園に位置する大久野島は「瀬戸内海の自然を感じる島」「平和を考える島」とともに、近年は「うさぎの島」としても注目され、国内外から多くの観光客が訪れています。訪れる方々で賑わう一方、この小さな島では今、人やウサギが増えたことにより様々な課題が生じています。そのため、島の関係者とともに、島の価値や魅力を伝えていくために必要なことを考えるために、ワークショップを開催し、島の未来について一緒に考えていただける方々の参加を募集しました。4回開催するワークショップの様子をニュースレターでお届けします。

18

よかったこと

大久野島にウサギが増えて良いと感じられることが18個あった。

47

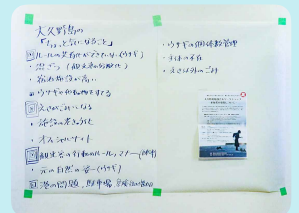
課題の数

受入体制の整備やポジティブな意見も含め、47の課題を共有した。

21

アイデア

課題を解決するために、21のアイデアをメモとして残した。



大久野島の「ちょっと気になること」

議論のルールを確認

ワークショップは、主催者である環境省職員の挨拶で開会しました。竹原市をはじめとする県内の関係機関に加え、公募の参加者は地元の大久野島や県内各所はもちろん、遠くは東京や横浜からも参加され、合計34名が参加しました。進行と記録は環境パートナーひろしまの15名が担当しました。全員が6つのグループに分かれて着席し、握手と自己紹介から対話の時間が始まりました。氏名・所属に加え、簡単なテーマに沿って発言します。ここで「議論のルール」を互いに確認し、話す・聞く方法を共有しました。活発な議論を促すため、SNSの投稿などについての約束も確認しました。

島の「現状」を共有

「参加者それぞれの視点から、大久野島の良いところや課題について共有しましょう」という投げかけで、第1回目のワークショップの到達点とし、グループ内で意見全体を共有し、多様な意見が目の前に張り出されました。それらを引き起こす要因ごとに「ウサギ」「観光客」「関係性」というキーワードで分類しました。その後、グループの中で、「今、自分は何を問題に思い、どれを解決したいか」という優先順位をつける作業を行いました。



取り組むべき課題は何か？

「大久野島のちょっと気になること」としてまとめると以下の3つが上位に挙げられました。

「ウサギに関するルールが共有されていない」

「エサがゴミになっている」

「観光客の行動に関するマナーのルールがない」

お互いを知って、島の未来を考える

今回は参加者それぞれの視点から、多くのウサギが存在することによる便益と課題について共有することができました。また参加者が互いの事を知り、島の未来を考えるチームづくりができました。グループの中で握手を交わして、第1回目のワークショップは終了しました。

次回のワークショップ開催について

次回のワークショップは11月26日(火)に休暇村大久野島で開催されます。ワークショップに先立って「大久野島勉強会」として、島の歴史やウサギの生態、環境省の取り組みについて学ぶ場が設けられます。勉強会では専門家や環境省による講演、ビジターセンターの見学、講演者によるクロストークを行います。これを受け、勉強会に基づく視点から課題を整理します。第2回のみ、一般の見学者を含めた公開ワークショップとなります。

